

上越市まち・ひと・しごと創生推進協議会 令和3年度第1回総会
議事要旨

日時：令和3年5月25日（火）10：00～11：30

会場：上越市総合体育館 ミーティングルーム

1 開 会

2 挨拶

＜上越市 池田企画政策部長＞

- ・ 第2期総合戦略では、人口減少の緩和並びに人口減少下においても持続可能なまちづくりを目標に掲げている。上越市への定住やUターンに係る取組について、本日参加の皆様からご意見をいただき、それぞれの団体の活動の中で展開できることがあれば、ぜひご協力をいただきたい。
- ・ 各主体が同じ方向に向かって取り組むことが大切だと考えている。本総会をその確認の場としていただきたい。

3 出席者紹介

4 議 事

(1) 令和2年度取組状況について

- ・ 事務局から資料1～3-3に基づき説明を行い、協議会として了承された。

(2) 第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について

- ・ 事務局から資料4に基づき説明を行い、協議会として了承された。

(3) 地方創生推進事業補助金について（報告）

- ・ 事務局から資料5-1～5-3に基づき説明を行った。

(4) ソーシャルメディアの運用について（報告）

- ・ 事務局から資料6-1、6-2のとおり説明を行った。

※議事(1)から(4)については、質疑なし。

5 その他

- ・令和3年度の市の取組について

事務局から資料7-1～7-3に基づき説明を行った。

- ・意見交換

- ・しごとづくり部会長の変更について

上越商工会議所 秋山庶務係長から板垣理事・事務局長に変更。

6 閉 会

○ 「5 その他」意見交換概要

<上越商工会議所 秋山庶務係長>

- ・若者まちづくり参画・交流促進事業を資料4「D-1-1 若者等の定住・UIJ ターンの促進」の主な具体的事業に追加してはどうか。

→ (事務局：阿部係長)

- ・記載の主な具体的事業は令和2年2月策定時点のものであるため、今回紹介した事業は記載されていないが、記載については検討していきたい。

<上越商工会議所 秋山庶務係長>

- ・上越市PR映像コンテスト事業について、現時点で応募しているチームは何チームか。チームの構成として男性、女性の比率は。どちらかに偏るのではなく異性が入っていたほうがよい。
- ・また、テレビCMの放映の範囲について教えてほしい。

→ (事務局：阿部係長)

- ・現在、応募は1チームだが、高校訪問の結果等を踏まえると、7チーム程度の応募が見込める状況である。
- ・チームの構成を男女混合にすることは応募条件とはしていない。
- ・地域の民放局との契約を予定しているため、放映は県内となる。

<連合新潟上越地域協議会 高橋事務局長>

- ・さくらボの参加人数、平均年齢は。

→ (事務局：道下主任)

- ・令和2年度は10名、令和3年度からは7名で活動している。

- ・平均年齢は 30 歳程度。女性 4 名、男性 3 名が参加している。

<連合新潟上越地域協議会 高橋事務局長>

- ・連合新潟に青年女性という委員会があり 15 名ほど在籍している。年齢についてもさくラボとほとんど変わらない。他団体との接点がほとんどないので、一緒にまちづくりやこれからの働き方について意見交換できるような場面を作っていただけ、さくラボのメンバーとコラボできればと考えている。

<上越教育大学 水落副学長>

- ・上越市 PR 映像コンテスト事業は、上越に住んでいる人が PR するものとなっているが、できれば高校生だけでなく、例えば高校生部門、大学生部門といった形で大学生も参加できる仕組みにしてもらいたい。本学の学生は全国から集まってくるので、地元の人が気付かない上越の魅力を PR できる。
- ・大学生がさくラボに参加するのは難しいが、映像コンテストのような事業であれば参加できるかもしれない。その中で大学生と地元の高校生の交流が生まれるのではないかな。

→ (事務局：阿部課長)

- ・高校生の映像制作に係る事業は、令和 2 年度から実施している。令和 2 年度は 1 チームから映像を制作してもらった。
- ・高校から学校単位でチームでの応募とすれば、参加しやすいとの提案をいただいたことから今年度はチーム制としている。この取組は毎年アップデートし、実施していきたいと考えている。外からの視点も非常に大切であるため、上越教育大学の学生の参加の仕方、関わり方について工夫をしていきたい。
- ・新潟県が行っているふるさと CM 大賞に今年度、市の映像制作チームが応募する予定。例えばそのチームに大学生から参加してもらうのも面白いのではないかな。

<新潟県上越地域振興局 玉井地域振興課長>

- ・コロナ禍で都会から地方へと目が向いているのではないかなという認識の下、県としても、企業の機能の一部を誘致する取組ができないか検討している。
- ・現在、上越、妙高、糸魚川の 3 市の若手職員によるワーキングチームを立ち上

げ、人や企業を呼び込むための施策の検討を始めた。検討の状況によっては、補正予算を組んで今年度中に事業化する予定である。ワーキングチームでの検討に当たり、どのようなテーマが考えられるか、外から見て何が魅力に映るのか、こういうものがあれば地元に残るのではないかなど、さくらボのメンバーから若者目線で意見をもらってもよいのではないかと考えている。

- ・県地域政策課において「若手人材等による地域課題解決提案事業」という補助事業を設けているので、さくらボが活用できるか検討してもらいたい。地域政策課と直接やり取りしてもらってもよいが、上越地域振興局へ相談してもらえれば地域政策課につながりもできる。

<上越信用金庫 山本副部長>

- ・本部に取引先支援部という部署があり、創業・起業のサポートをしている。ケースバイケースだが、そのような部署でお役に立てることもあると思う。
- ・当行としては、今後金融リテラシーに力を入れていきたいと考えている。これまでも高田商業高校を受け入れた。今年度は城東中学校を受け入れる予定。
- ・高校生が地元就職してもらえるよう、就職支援に力を入れることも大切だと思う。そういった部分でも皆さんと協力していきたい。

→ (事務局：阿部課長)

- ・これまでの情報交換会の場において、女性が働くということを考えてときに、介護休暇や育児休暇といった制度は充実しているが、実態として機能していないのではないかと意見が出た。中小企業等においては、なかなか取得しづらいという意見も相当出たところである。情報交換会の中には経営者の方も出席しており、最小限の人数で経営している中で、突然休暇を取得されると、業務全体に支障が出てしまうため、困るという意見が出た。例えば市が実施している病児保育のように、休暇の中間点となるようなサポートがあるとよいのではないかと考えている。
- ・また、情報交換会において、自然な出逢いが無いといった意見もあった。社員が独身であることを気にかけている経営者もいるので、今年度は自然な出会いの場の創出についても検討していきたい。